

感染予防に配慮した中学校の体育学習

「武道(柔道)」の配慮事項

2020.10.19 札幌市教育委員会

<https://youtu.be/ueiDFIxXkcc>



(5分 42秒)

感染予防に配慮して、生徒同士が直接組み合う活動(固め技を含む)は行わなくても、
武道(柔道)の楽しさを味わえる体育学習を実施するための配慮事項を例示します。

【授業前】

- 手洗いの指導をしっかりと行う。
- 格技室等のドアや窓を開けるなど、換気は可能な限り常時、困難な場合はこまめに行う。
- 更衣については、時間をずらしたり場所を複数用意したりして生徒同士の間隔を確保する。



【授業中】

※熱中症の危険性が少ないと考えられる場面においては、マスクの着用も考えられる。ただし、生徒の呼吸が苦しい様子が見られる場合には、マスクを外すように指導する。

<準備>

- 畳を運ぶときは、二人で同じ方向を向いて運ぶように指導すると、お互いの距離が離れ、安全に運ぶことができる。
- 畳がずれたら元に戻すなど安全面の指導も行う。



<学び方の指導例>

- 特定の少人数のグループによる活動とするとともに、他の生徒との間隔を十分に確保して動きを確認し合えるようにする。
- 横受け身を行う際など、足や手がぶつかったり、生徒同士の距離が近くなったりしないよう、右側から始めるなど方向を合わせられるようにする。
- マーカーやミニコーンなどで目印を置き、生徒の間隔を十分に確保する。
- ローテーションで運動を行うようにする。



<場や用具の工夫例>

- 二人一組で受け身を練習する際に、受け身をする人が動き終わった後の手と脚の位置に、観察者がマーカーを置くことで、直接触れることなく動きを伝え合うことができる。
- フラフープを交差させて、紐で固定した用具を使用すると、組んだ状態と同じように崩しと受け身の練習をすることができる。受け身の際は、畳をたたかない方の手でフラフープを離さないように指導する。
- 帯を使ってのくずしの攻防を行う。触れ合わずに攻防の楽しさの一端を味わうことができる。
- 帯を使った引手を意識した横受け身の練習は、取の引く力も必要なことから、柔道に慣れてきた段階で行う。
- 柔道着に下履きやボールを入れることで、上半身の固め技をかける練習することができる。
- 受け身を練習する際には、しっかり顎を引いて頭を打たないように指導する。



※自作の用具の作成や使用に当たっては、安全性を十分に考慮するとともに、初めて使用する自作用具の場合は、その使用前に複数の教職員による安全性の点検・確認をすること。

【授業後】

- 手洗いの指導をしっかりと行う。
- 更衣については、時間をずらしたり場所を複数用意したりして生徒同士の間隔を確保する。

